臺灣日日新報 (八面)
昭和十九年三月二十八日 (第一種郵便物認可)
第一万五千八百三十三號 (一)

國境戰局の中心 印度領内に移行

敵英印防衛陣崩潰近し

【東京發】インド國境を突破した日印軍會戰は益々熾烈インド領内に入つてゐるが、インパール方面の戰況は、インパール盆地に對し北、東北、東南の三方面から包圍攻撃を加へつゝあり、敵の抵抗は次第に激烈となつてゐる。

一、インパール進撃作戰最高潮

【カバウ發】カバウ盆地方面、タム、インパール方面第二十師の本隊タムに對し國境より約六十粁地點に於て南下、北進部隊のカバウ盆地内に於ける包圍作戰を實行中であつたわが部隊はタム西方地區に於ける敵作戰の主力を完全に捕捉目下第二十師の主力を完全に捕捉目下第二十師の主力を完全に捕捉殲滅戰を展開しつゝあり、一方有力なる日印混合部隊は機動化部隊を先頭にタム、インパール街道に沿ひ敵背の進撃を續けてゐる。

インパール盆地の戰車混戰

インパール盆地の戰車混戰は、インパール市内及び同市東南方タム街道上において第十七師團及び第二十師團の一部と對峙してゐた敵第二十師團の主力は、わが包圍に陷るやインパール市内及び同市北方地區に向ひ急速退却中であつたが、第十七師團の一部は敵の退路を遮斷するため、インパール街道に沿ひ敵背の進撃を續けてゐる。

インパール盆地の戰車混戰は、インパール市内及び同市北方地區

社說

社會科學輕視の傾向無きや

我國力の總動員に關し、法文學科方面の協力は重要なるが、從來我國に於ては理工科學が尊重され、即ち科學萬能の觀念が支配されることになり、自然科學と人文科學との間に不均衡を來し、從來の如く社會科學方面の協力を無視に近き狀態にあるの感なきを得ない。

元來、我國は社會科學の發達の點から見て、歐米に劣らず、その見識は學界の一部に於ては、歐米の學者をも凌駕するものがあるとも稱せられて居る。從て國家當局の一部に於ても、社會科學の學者の意見を尊重し、或は之を參考として居る向きもあるが、概して社會科學方面の協力を輕視して居るものが多いことは、一面に於ては學者自身にも責任があるとは言へ、國家の重要政策の決定に當り、社會科學の學者の意見を參考とすることは極めて必要であり、且つ緊急なことである。今次の臨時議會に提出されたる豫算案の如きは國家の財政から見ても財政學者の意見を聽くことは勿論、經濟學者の意見をも聽くことは極めて必要であるが、如上現狀に於ては、國家の社會科學方面の協力を輕視して居るものと言はれても辯解の餘地なきが如くである。

◇

然し、輕視されたのでは無いかと思はれる點は、從來社會科學者の研究に對して、餘りに干渉を加へ過ぎたことにあるとも言へる。即ち社會科學者の研究に對しては、或る程度まで自由放任の態度を採るべきであるに拘らず、從來は之に對して干渉を加へ過ぎたことが、その發達を阻害したものと言へる。

從て社會科學者の研究に對しては、或る程度まで自由放任の態度を採ることが必要であるが、之と同時に社會科學者の研究が、國家の政策樹立に資するに足るものであるか否かを檢討し、之を採用するか否かを決定することが必要である。

◇

而して、國家必要なる研究や調査の如きは、自ら國家の施設を以て行ふべきであるが、之と同時に、國家の政策樹立に關し、社會科學者の意見を聽くことは、それ自體が皆々の發展に資するものであるから、國家の政策に關し、社會科學者の意見を聽くことは、それ自體が皆々の發展に資するものであるから、國家の政策に關しては

皇后陛下 下賜の御紋菓拜受 勤兒達 軍援の式典に臨む

健氣な覺悟を永久に 父の志を繼いで 立派な國民と

此の感激を永久に 健氣な覺悟を披瀝

父の志に添ふやう 立派な人間になれ

面對の時と父なる神

「けふの覺悟を貫き 家門の名譽を保て」

勤兒ら 護國神社參拜

長谷川總督訓示

聖戰に散華の勇士

二度のお召に 武勳輝く

大東亞戰に參加 輝く武勳

軍務に精勵中 不幸戰病死

學徒海洋教練振興會

貨物自動車運賃改正

ねつとせきにはヘルン美味飛燕
お茶でのむとよくキキます
製造元 神農氏大藥房 臺北市

戰力增強へ道路開鑿

新設勤報隊の增産使命

【郡守】管内各地に結成する本隊若くの農業報國隊並びに婦人の參加する報國隊をかけ竹林開發等農業關係の開墾、昭和十九年度より新竹州下に二ヶ所開墾されることになつたことは既報の通りだが、この新設二箇所を除くの竹東郡山地界と第一線國境を控えの竹東郡山地は、もの凄い勢ひで開墾の鍬が入れられてゐるが、この新設二箇所の開墾地は何れも交通不便の地に在り、且つ開墾に適する地と雖も、未だ手を入れられざる處女地であるから、開墾には非常に長時日を要する上に、開墾後の農業經營も容易でないので、この開墾地を選定するに當つては、慎重に慎重を期して、開墾後の農業經營が立派立つ樣な地點を選定することになり、加ふるに隣國の重要なる交通路と深く關係を有する關係上、竹州は勿論のこと、全島の開墾地の中でも最も重要な地點であるから、州當局は勿論、開墾關係者は勿論、全島の開墾關係者は勿論、全島の開墾關係者は勿論、全島の